

# 新型コロナウイルスへの対応について

2020. 09. 01

一般財団法人ふくしま医療機器産業推進機構

専務理事 滝澤 眞己

新型コロナウイルスが猛威を振るい、その感染は世界中に広がっております。はじめに、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、感染により苦しんでおられる方々、ご家族や関係の方々に心からお見舞いを申し上げます。そして、世界各地で昼夜を問わず最前線で治療や感染予防に力を注がれている医療従事者の皆様、また、政府や自治体等の皆様に深く敬意を表し感謝を申し上げます。

当機構では、職員とその家族、そして、当機構が管理するふくしま医療機器開発支援センターをご利用されるお客様の健康と安全確保の徹底を図ると同時に、医療機器開発の支援拠点として当機構が果たすべき重要な役割を踏まえ、お取引先様や関係の皆様とともに安全性試験の実施など事業活動を継続しております。さらに、福島県医療福祉機器産業協議会様や福島県臨床工学技士会様と連携し、医療現場で不足しているフェイスシールド等の開発・製造の支援を進め、最前線でご尽力されている医療機関様へご提供させていただいております。

新型コロナウイルスは私たちの日常生活を根本的に変え、その収束は未だ見ることが叶いません。私たちは、職員の安全と健康を確保しながら事業活動を継続し、有効な医療機器の開発を一層促進させ、人々の生活を支え、医療機器産業の発展に貢献できるよう、引き続き取り組んでまいります。

## 当機構の取組みについて

2020. 09. 01

当機構では、職員とその家族、そして、ふくしま医療機器開発支援センターをご利用されるお客様やお取引先様、関係の皆様のご健康と安全確保の徹底のため、以下の取組みを進めており、引き続きその実践に取り組んでまいります。

### 1 職員への対応

#### (1) 出勤時の対策

密状態の緩和のため、在宅勤務と時差出勤を推進しております。

毎日の出勤時に、職員の検温と強いだるさや味覚異常など体調不良がないことを確認いたします。また、出勤時や外出から戻った際には、手指消毒を徹底しております。

#### (2) 勤務時の対策

マスクの着用に加え、各デスク上や会議室等の個室には県内企業が製作した飛沫感染防止のための衝立を設置するほか、定期的に室内の換気を行っております。



衝立

また、外部との会議においては積極的にオンラインを活用し、可能な限り接触の機会を減らしてまいります。

### (3) 出張やセミナー開催等の制限

首都圏や関西地域、東海地域など、職員の福島県外への出張を制限しております。

また、当機構が主催するセミナーや展示会につきましては、お客様に会場に直接お出でいただくものではなく、オンラインを積極的に活用して開催するものとし、感染予防に努めてまいります。

## 2 お客様やお取引先様等への対応

### (1) ご来訪時の取組み

お客様やお取引様等のご入館に当たりましては、マスクの着用や検温、手指消毒の実施に加え、強いだるさや味覚異常など体調不良がないことを確認しております。

また、安全性試験の立ち会いや打ち合せに当たりましては、ご来訪に先立ち 2 週間前からの検温実施をお願いする場合がございます。なお、打ち合せにおいては、可能な限りオンラインによる実施をご提案させていただきたいと存じます。

### (2) 研修室の利用

研修室の利用につきましては、最大 300 名程度（シアター形式時）を収容可能なところ、1/3 以下の最大 85 名までといたします。また、座席配置の工夫や換気の実施により 3 密を回避し感染予防に努めております。

### (3) ご利用後の取組み

試験室や研修室等をご利用いただいた後は、ご利用いただいた箇所を次亜塩素酸ナトリウム等により清掃いたします。

## 3 事業活動の継続

当機構は医療機器開発の支援拠点として安全性試験の実施を始め各種事業に取り組んでおり、医療機器開発に向けたお取引先様の企業活動に重要な役割を担っております。

これらの企業活動が、今般のコロナ禍の中にあっても円滑に進むよう、より緊密に連携しながら各種事業を着実に進め、お取引先様に寄り添ったできる限りの支援を継続してまいります。

## 4 福島県内企業等との連携による地域社会への対応

当機構では、福島県医療福祉機器産業協議会様や福島県臨床工学技士会様と連携し、医療現場の不足品の開発・製造に向けた支援に取り組んでおります。

既に、飛沫感染防止のためのフェイスシールドについては、協議会会員である県内の 4 企業様が試作品を製造され、福島県臨床工学技士会様を通じて地域の医療機関様へご提供させていただいております。

加えて、新たに医療現場のニーズに基づいた感染防止具の開発に着手されており、当機構では、協議会様や会員企業様、技士会様などと連携しながら、最前線で取り組まれておられる地域の医療機関様への支援を進めてまいります。

(1) 飛沫感染防止のためのフェイスシールド（試作品完成）

ベッド上で患者様の頭部をカバーし、咳やくしゃみ、人工呼吸器装着時等の「飛沫」を防止するものです。県内4企業が開発に取り組み、それぞれ試作品を完成させております。

なお、試作品は県内16の医療機関へご提供しております。



(2) 医療現場のニーズに基づいた感染防止具（開発中）

診察や検査時において、患者様の咳き込みの際などに生じるエアロゾルを介した感染を防止するものです。現在、開発に向けて企業様と医療現場様との協議が進められております。

